

帯広畜産大学同窓会報

第4号 平成9年9月 帯広市稲田町西2 帯広畜産大学内 帯広畜産大学同窓会事務局発行

第4号に寄せて

会長 岸上正治 (S18獣医卒)

例年にみられる酷暑に見舞われる中、会員の皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて 会長就任以来、4年を経ようとしておりますが、この間、本会の活動基盤づくりを重要な課題として取り組んで参りました。以下、その概要についてご報告申し上げます。ご理解とご協力をお願いいたします次第です。

先づ初めに、平成5年秋の通常総会にて、本会の憲法である「同窓会定款」を時代に即し「同窓会々則」に改め1万有余の同窓生の方々の円滑な活動が支援できる体制づくりのもと、各条項の検討をなし、更に運営上、「運営委員会制」を「代議員会制」へと変更し、その実を挙げることにいたしました。

二つめには、活動の経済基盤の早期確立であります。その核となる入学時の協賛金納入が、先の三浦会長の執行部で実施されたことにより経済基盤が確立しつつあります。この協賛金について、多くの方々のご理解のもと条文化され過日に代議員会にて諒せられ、今総会にて承認を受ける運びとなっております。さらに、この基盤を強固にして同窓会活動を活性化するために協賛金の値上げを役員会及び代議員会で検討し、10月の総会に提案する運びとなっております。

次には「同窓会名簿」と「会報」の発行であります。名簿は三上編集委員長の努力により年々精度が高く内容も密となり一段と改善が加えられその利用価値も高く評価されています。更に加えて広告の掲載など創意工夫が加えられています。「会報」は年に1回の発行ですがこれで4号となります。内容は大学側の各種情報、支部の情報、事務局からの便り等を取り上げ会員の方々への唯一の機関誌ではなからうかと考え、更なる内容の充実にも努力いたしております。

次には、本会の組織強化をはかる支部の結成の促進ですが、現在21支部の結成報告があり、それぞれ個性ある活動を展開されており、ご同慶に堪えません、1万有余の会員が国内外を問わず活躍されており、地区（地域）に於いての組織化は是非必要と存じますので未結成の地区も支部結成に努力されるようお願いいたします。

更に本会の事業の一つである「大学への後援」であります。本年は取急ぎ国際交流推進のための「奨学寄付金」を始めて後援申し上げ喜ばれており、今後経済基盤の充実度に合わせ中広く考えることにしています。また、現役学生への後援をも事務局にて検討中であります。

上述の他に、役員報酬・旅費支給の内規等、不十分なから活動の活性化に具しております。

この4年間を顧みて、役員一同、事務局員を始め多忙の中ご協力をいただき本会発展のため精進下さいましたことに敬意と感謝を申し上げます。

終わりに、会員各位には本会へのご理解とご協力を一層賜りますとともにご健勝を祈念申し上げます。



楳音響く畜産大学の近況

学長 久保嘉治

同窓会員の皆様方には、ご壮健にてお過ごしのことと、お慶び申し上げます。

畜産大学は、平成8年度には学士（農学）222名、修士（農学）38名、別科修了者24名を、新たに社会に送り出しました。これによって、学部卒業者は7,892名、大学院修士課程修了者1,100名、別科修了者853名となりました。旧学制による卒業者等を含めると、総勢は10,803名に及びます。会員各位のご活躍にも目覚ましいものがあり、歴史の重みと有り難く受けとめております。

ここで、直近一年の大学の動きをお伝えします。本年4月に、教養課程を廃止し、同課程の教官は既設の専門講座と新設の共通講座（人間環境）に分属する改組、修士専門講座等の一部編成変更が行われ、すべての教官が修士課程以上の教育に従事する体制が整いました。また原虫病分子免疫研究センターには第4分野（節足動物衛生工学）の新設も認められました。教育・研究体制の充実が図られ喜んでいる所であります。

施設の面では、昨年11月に生物資源科学棟が完成しました。この建物は、落ちついた茶色の壁、日高山脈をイメージした端（つま）を持ち、威風堂々とした潇洒な6階建てであります。本年は、原虫病分子免疫研究センターの増築工事と、地域共同研究センターの新築工事が進められています。前者の建物も山並みをイメージした外観を作り、玄関の壁には5研究分野を連想させる原虫が、鳥の体内に息衝き、世界に雄飛する姿を模したレリーフがつけられる設計となっています。後者には、平面プランや外観づくりにおいて、産官学の三者が要となって、知恵と力を持ち寄り、地域に役立つ科学技術を末広がりに創造して行くという、思い入れがこめられています。いずれも11月には完成します。これらの研究施設が整備されれば、キャンパスの景観も変わります。

いよいよ濃緑の7月、キャンパスでは緑陰の下でさえずる小鳥やセミの音に、楳音が加わり、心地よいハーモニーが奏でられています。皆様方には機会を作って、ぜひ大学にお立ち寄り下さり、自然の調の中でお疲れを癒して頂きますれば幸いです。

今年度、同窓会より本学に対して奨学寄付金をいただき感謝致します。その趣旨に沿いまして、本学との国際学術交流に高い実績を持つ韓国の関係大学に、留学生担当の教務課長を出張させていただきました。この事は国際交流の更なる発展に大いに寄与するものと信じます。

最後になりましたが、同窓会の益々のご発展と、会員各位のご活躍をお祈りいたします。

☆ 学科などの近況 ☆

vvv 獣医学科 vvv 学科長 品川 森一

獣医学科は若干の人の動きがありました。今年も獣医学科を卒業退官された先生はいらっしゃいませんでした。しかし残念なことですが病理の中川先生が健康上の理由から本年3月末をもって退職されました。現在後任の人事が進められております(助教の松井先生が9月1日付で教授に発令されました。)。臨床放射線の佐藤基佳先生が地域共同研究センターの専任助教として転出され、その後任に宮原先生が昇任されました。さらにその後任の助手として本学出身の山田一孝先生が6月に着任され、獣医学科には山田先生が3人揃いました。嬉しいことですが、教養の再編によって、生物の松沢時弘教授が生理学教室に、獨語の高橋一教授が公衆衛生学教室に所属されました。原虫病分子免疫センターに筋足動物衛生工学分野が純増2、振り替え1によって新設されました。獣医学科から薬理学教室の佐藤由手が振り替えて助教として転出され、薬理学教室は2名となりました。なお原虫の新設分野の助手として東京大学から玄学南先生が赴任されております。教授には家畜衛生試験場から藤崎幸藏先生が8月1日付けで赴任される予定となっております。

過去数年に亘って帯広畜産大学獣医学科を中心としたJICAプロジェクトを実施することを進めてまいりました。やっと本年7月から5年間の予定で、モンゴル家畜感染症診断技術改善計画のプロジェクトが発足いたしました。もちろん獣医学科の教官だけでは此のプロジェクトは動きません。他大学、農水始め関係機関のご協力を仰がなければならぬのは言うまでもありませんが、先輩諸氏のご支援も期待しております。よろしくお願ひいたします。

御存知と思いますが、獣医学教育が6年制になる際、数校が再編して充実を果たして対処するという前提でした。しかし再編は行われず、そのまま6年制は発足し、さらに連合大学院も持ち合わせるようになり獣医学教官は負担の重みに喘いでおります。旧制帝大では自助努力によりそれなりに充実しましたが、新制大学では実質的に全く充実されておられません。最近獣医師免許の国際化が話題にのぼります。すでに米国、英国及びEUを中心とした3ブロックで国際化が行われております。残念ながら、日本、台湾、中国及び韓国はどのブロックにも入っておりません。教育基準の違い過ぎていることがあります。日本では、大学基準協会が本年4月に獣医学教育の基準を、学生定員60名までの場合、教官数を72名以上と改訂し、上記諸外国に近づく向上目標ができました。しかし、新制大学の現実は帯広畜産大学獣医学科でも教官数は31名にすぎません。国際協力が言われるなか、国際的に通用する獣医学教育が出来るように皆様のご支援をお願いいたします。(H9-7-7 記)

PPP リモデル的な学科改組 PPP

畜産管理学科長 佐々木市夫

日本の社会がどうにもこうにもならなくなってきたのか、いたるところで改革、改革と呼ばれている昨今です。この改革に日夜苦心されている同窓生の皆様も多いので

はないでしょう。大学の状況もまた同じです。畜産管理学科は、平成9年4月に組織改革をしました。「またですか?」とおとがめが周囲から聞こえてきそうですが、今回の改革は、内装の模様替え程度の「リモデル(remodel)」とっていいものでした。破産宣告を受けて人員整理を含む「リストラ(restructure)」とか、破産宣告は受けないものの組織を根底から作り替える「リフォーム(reform)」というものではありません。

リモデルは、組織の骨格はそのままにして内側の間切りの変更や改造を意味する改革ですが、本学科の場合、どのようなものだったか、以下あらましを述べます。

従来、家畜育種増殖学、家畜生産管理学、畜産経営情報学および畜産資源経済学の4大講座で構成されてきました。それが新しく、5大講座に編成替えになったのです。すなわち共生家畜システム学講座、家畜育種増殖学講座、家畜生産機能学講座、畜産経営管理学講座および畜産資源経済学講座です。

□共生家畜システム学講座は、持続可能な共生型畜産の技術・経済システムの設計の主導的役割を担うものとして新設され、家畜生産管理学と畜産経営情報学との混成教官メンバーで編成されています。畜産経営情報学を母体とする畜産経営管理学には、教養課程から基礎学術分野として3人の教官が加わりました。家畜生産管理学を基盤とする家畜生産機能学にも、教養課程から1人の教官が新加入しております。家畜育種増殖学と畜産資源経済学は、名称の変更はなく、実質的に従来の組織を継承しております。

ところで、実に残念なニュースが一つあります。共生家畜システム学の講座主任でありました新出陽三教授は、病氣療養中のところ6月18日にご逝去されました。本学科にとって大変大きな痛手です。謹んでご冥福をお祈りします。(H7-6-27 記)

AAA 畜産環境科学科 AAA 学科長 嶋田 徹

春先の低温では暖房の終了後とあって、セータを着て震えておりましたが、最近は一転、連日の晴天高温で、衣替えに忙しいこの頃です。このように帯広は相変わらずの異常気象振りですが、お陰で何年か振りて初夏らしいキャンパス風景、青葉に小鳥達、木陰に憩うTシャツにショートパンツの学生達・・・が繰り広げられています。この一年、学科の最大のニュースというところ、やはり教養課程の解体に伴う組織改編でしょうか。まず一部講座の講座名が変わり、飼料作物科学講座が作物科学講座に、草地畜産機械学講座が生物生産システム工学講座になりました(構成研究室は前と同じです)。また教養課程から地学と物理の小柳先生と前田先生が土地資源利用学講座に、生物の後藤先生と開発資料部の辻先生が生態系保護学講座にそれぞれ編入されました。その結果、本学科は総勢が40名となり、本学最大の学科としてますます充実発展していくことになりました。(H7-7-1 記)

CCC 生物資源化学科 CCC 学科長 佐藤 哲也

本学科は、この4月に改組が行なわれたので、そのことと合わせて近況を報告いたします。大きな変化は、34年の永きにわたって本学において栄養士課程、農村生活科学専攻、家畜生産科学科、生物資源化学科で多大の

功績を上げられた有賀秀子先生がこの3月に停年退官されたことと学科名称が生物資源科学となり、2講座が3講座編成になったことです。学科の内容について紹介いたします。

応用生物化学コース（2講座）

応用生命科学講座：動物・植物及び微生物などの生体機能物質の栄養代謝、生物間相互作用に介在する物質の生理的役割（生物機能化学 伊藤精亮教授、大西正男助教授、小嶋道之助教授（8月1日昇任）。動物・植物の有用遺伝資源及び埋蔵遺伝子の保存と利用（環境生化学 中野益男教授、吾妻勉助教授、福島道広助手）。

応用分子生物学講座：植物・微生物の相互作用の機構解明と利用、植物胚発生に関与する蛋白質の機能（生物機能開発学 佐藤哲也教授、増田宏志教授、大和田琢二助手）。植物の化学物質の構造と生理活性の解明と利用（生物有機化学 鍋田憲助教授、田崎弘之助教授、橋本誠助手（4月1日採用））。旧教養課程から高澤俊英教授が加わり、好冷細菌の生理機能について研究を行っています。

生物資源利用学コース（1講座）

生物資源利用学講座：農畜産廃棄物の加水分解による利用及び農産物の省エネ貯蔵システムと農産物の軟化現象の解析（食品工学 中川允利教授、石橋憲一助教授（10月1日教授昇任予定）、弘中和憲助教授）。食肉とその加工品の品質の保持及びその機能性（畜肉保蔵学 三上正幸教授、関川三男助教授）、乳中糖質及び細胞成長因子の分離と構造・機能の解析、乳酸菌代謝物質の性質と応用（酪農食品科学 浦島匡助教授、中村正助手）。立派な新校舎で、教官一同教育・研究に励んでおります。今後の更なる発展のため、皆さまのご支援をお願い申し上げます。



新築なった生物資源科学棟（家畜病院側から撮影）

LL 共通講座：人間環境の紹介 LL

共通講座主任 川端 喬

帯広畜産大学の改革は、教養教育の重視を念頭に、教養課程組織を解体し、その人的資源を利用して大学の発展を図ることであった。

教養教育、或いは一般教育を重視する姿勢を堅持するのは、新制大学の教養課程が、自由、平等、人権、そして福祉や平和といった人間に共通の価値体系の教育を担う場であり、大学の社会的信頼感を充実させる仕組みであることを否定できないからです。

「口達者。自己中心的でうぬぼれが強い。良心が欠如

し罪悪感とは無縁。他人の感情に関心がなく、冷淡。かつ情緒に乏しい。行動は衝動的で、抑制がきかない。」この特徴を併せもつ人をサイコパス（精神病質）と呼ぶ。

（朝日新聞 7月17日「怒」より）

これは政治、経済、教育、情報のどの世界も抱え込んでいるスキャンダルと関係する特徴かもしれない。その世界にドップリつかり大量生産、大量消費、大量廃棄で支えられ、業績を最優先するとき人の組織が容易に陥る特徴かもしれない。教育研究に場慣れた大学の現場も同じ危機に瀕している。

畜産大学の改組の目玉は、「共通講座」を設け、環境社会システム分野と文化環境分野の教育研究を進め、農業、畜産の世界に寄与することである。

環境社会システム分野の課題は、現代社会が構成している様々な集団や組織、広くは人間社会の諸活動が自然環境や社会環境に及ぼす影響、それがもとの集団や組織にフィードバックされてそれを変化させるプロセスを社会諸科学の立場から総合的に教育研究することである。

文化環境分野の課題は、「文化」概念の本義に立ち返り、人間・自然・社会の在り方を分析・探求し、近代的ならびに伝統的社会における多様な概念体系を、文学的・歴史的・哲学的・民族学的な諸現象の考察を通じて教育研究することである。

JJ 別科（草地畜産専修） JJ 主任 三上正幸

昨年4月より別科主任を担当しております。この1年間を振り返ってみますと、まず、カリキュラムの改正でした。大きな改正は随分昔に行われたと思いますが、最近では教養科目と専門科目の垣根を取ったり、実習単位の変更、時代に即した内容などに改正し、学内の教官各位の協力で本年度から実施しております。このように別科教育をより良いものにするべく努力しているわけですが、今年の入学者数は13名と異常に少なく大変ショックです。これから18歳人口の減少に伴い、入学者数の減少が懸念されますので、積極的なPRをすることも必要です。

別科の目的は、将来農村に残り、我が国の食糧を自らの手で生産することを決意した農業青年に対して畜産・酪農を中心とした教育を行い、農業後継者を育てることです。この20年間の入学者数を見ますと、地元十勝の出身者は約6割を占めており、また、4～5割が農業高等学校出身者です。しかし、入学者の9割近くは農家の子弟で、別科修了生の子弟（2世）も最近時は時々見られ、長い歴史の一旦が見られます。

別科の教育体制は、ほとんどが学部の教官に頼っておりますが、助手の熊瀬 登先生がかなりの部分を受け持ち頑張っております。その他に、農場の池澤 孝先生、大谷昌之先生、2年生のクラス担任の柳川久先生、1年生のクラス担任の佐藤雅俊先生、更に、岡本明治先生、田口清先生も特別演習で別科学生のお世話をしてくれています。教育体制、施設は立派ですから、これからの日本農業を担う別科学生が、このまま減少することがないように、多くの受験者が集まりますように、卒業生諸兄姉にもPRいたします次第です。

今年の6月10日に、毎年本別の道立農業大学で行われている交流会（第5回）が、相手方の建設工事のための、初めて帯広畜産大学で開催されました。農大の学生

数は約120名と別科学生数の約3倍の受け入れのため、熊瀬先生と2日目学生は2ヶ月以上も前から準備してその日を持っていましたが、当日はあいにくの雨のため野外競技はできませんでした。予定していたソフトボールは体育館の中でバレーボールに切り替え、他にミニバレーや綱引きなどで交流を深めることが出来ました。来年も農大は工事のため使用できず、畜大の当番校が決まっています。熊瀬先生大変ご苦労さまでした！来年は2年生が少ないため、熊瀬先生本当にご苦労さまです。

現在、夏休み前で、特別演習や研修旅行の準備で2年生は忙しい毎日です。夏休昨年、今年と交通事故もなく一安心ですが、この夏休みも全員元気で終わることを望んでおります。(H9-7-16)

◇ 各支部の近況 ◇

【ブラジル支部】

事務局 藤田宗昭・めぐみ(旧姓堀)(草地S62)

日本とは12時間の時差が在りますここブラジルにも同窓会支部が活動している事をご存知でしょうか。ブラジルの国土面積は日本の約23倍にあたり、豊富な土地資源を利用して農牧畜業が盛んに行われています。お陰で同窓生の活躍の場も多くあり、其の所為か毎年の同窓会も会員21名の多数の参加のもと盛大に行われています。今年はこの発足20周年を記念して青山明政氏(酪農S46)の幹事によりサンパウロ郊外アチバイア市の湖畔にて、家族同伴の会を催しました。今年は天皇陛下の御訪問で何時になく日系人社会に活気が見られ、同窓生の渋谷昭一氏(獣医S25)も陛下と謁見されたそう？話に花が咲きました。ここでの各地方から集まる会員との情報交換は大変貴重且つ興味深いものであります。現在この政府は対外開放政策を積極的に推し進めているので、外資による大規模な食肉加工工場、穀物栽培等の開発が各地で行われており改めてこの国の大きさを感嘆します。以外に知られていない事ですがこの国の経済規模は世界の10指に入るもので、其の中で農業関係は大きな割合を占めております。日本とも食糧供給で深い関係に在るブラジルに在る私共の同窓会、日本の皆様のお役に立てる事が有るやも知れません。お近くへお越しの際には是非ご連絡を。最後に学生はじめ諸先生、そして皆様の益々の御健康と御多幸をブラジル同窓会一同心からお祈り申し上げます。

Mr. Muneaki FUJITA, CP 259, Campo Grande-M.S.,

CEP 79002-970, BRAZIL

自宅 Phone/FAX 001-55-67-725-7135

牧場 Phone 001-55-67-681-2100 (変更しました)

【札幌支部】 会長 市岡英二(酪農S25)

札幌同窓会はこれまで、道内ということからか、特に支部としての意識がなく、本部とは一体感の中で、その都度連絡を取りながら、事業推進をはかっておりました。札幌同窓会としての創設は、昭和47年という記録があります。しかし、その前から職場毎や、各期毎の同窓活動が活発に行われていたようでありす。

昭和57年頃からは、卒業後日の浅い新会員や女子学生の参加がみられ会の運営に花を添えていたようです。

帯広畜産大学札幌同窓会の規約によりますと「この会の会員は札幌市及びその周辺の日町村に居住する者」となっておりますので、発足当初でも会員800名近くになっております。これが現況では1,500名をこえるようになっております。例会は原則として年一回の開催となっておりますが、なかなか連絡がとりにくく、例会を持っていない年もありました。そこで、帯広畜大に在籍された方が、叙位、叙勲、又は受賞などの機会に祝賀会と例会を併せたいような形で開催してまいりました。このような形の例会には10-100名の方が参加されております。

今年は役員改選期でもありますので、先般来協議を重ねてまいり、特に叙位、叙勲はありませんが8月8日頃に札幌市で開催予定となりました。

この協議を通じて同窓会の活性化をはかることになり①新会長を選任して活動を積極化する。②事務局を現在の北海道肉用家畜協会から、関係者の了解を得ながら日本馬事協会北海道事務所に移行する。③役員幹事体制の確立をはかる。④1,500名の会員との連携をはかるため道新の案内欄等の活用をはかる。⑤前回例会出席者、最近の卒業生には、事務局から案内する。⑥各期毎の連絡代表者を決めて連絡する、などなるべく多数の方に案内することになりました。会員相互の親睦と交流の一層の活性化をはかることになりました。

【青森県支部】 会長 諏訪内博之(獣医S20)

毎年同窓会を開催しておりますが、平成8年度は、12月7日青森市本町5丁目「ふるさと料理のふふ」で開催いたしました。

昨年までは、同窓生73名でしたが、今回は平成7年度卒業生2名を加え75名となりました。総会の出席者は25名程で、この度は女性の方もはじめて出席され盛大な同窓会となりました。

さて今回は、この機会に私の処から2キロ程離れたところにある、青森市三内丸山遺跡を紹介いたします。青森市三内丸山遺跡は江戸時代から知られている有名な遺跡で、これまでの発掘調査で縄文時代前期から中期(約5,500年~4,000年前)の大集落跡や平安時代の集落跡(約1,000年前)、中世末(約400年前)の城館の一部が確認されております。

特に縄文時代の大集落は、居住域や大規模な墓域、大型の堀立柱建物跡、土器作りの粘土採掘穴、盛り遺溝(廃棄ブロック)などの施設を計画的に造ってある有名な遺跡。また交易によって他地域から持ち込まれたヒスイやコハクも出土しております。漆器は高度な技術をもつ人々によって作られており、谷からは人々の生活の様子が具体的にわかる資料がたくさん出土しております。

三内丸山遺跡は約1,500年継続して生活が営まれ、しかも定住が行われ、その間、計画的に共同作業で様々な施設が作られたものと思われす。青森県では遺跡の重要性を考慮し、当地に予定していた野球場建設を中止し、三内丸山遺跡を保存、活用することを決定し、着々とその整備事業を進めております。

もし青森方面に来る機会がありました際は是非一度青森三内丸山遺跡をご見学されることをおすすめいたします。

最後に母校と同窓会の発展と皆様様の御健康をお祈りいたします。以上、近況を報告いたします。

【秋田県支部】 会長 月澤雄一（獣医S18）

去る平成9年6月7日、畜大同窓会秋田県支部会が男鹿市門前の磯野屋旅館で開催され15名の会員が出席して楽しい一夜を過ごしました。

男鹿の海は丁度、恒例の鯛祭り開催中で、海の幸が最も豊かな時期であり、網元でもあるこの旅館の御馳走はいつもながらスゴイものでした。たまたま、秋田県内に就職した新入会員男女二名（獣医H8、写真参照）の歓迎の会ともなり、男鹿の「ナマハゲ」鬼も宴会に現れて、大きなうなり声をあげて歓迎、激励してくれました。東京都出身の二人は、ローカル色たっぷりの風土の秋田に来て今のところ大満足の様子で張り切っています。

我々の話のつい畜産全盛期の頃の回顧録になってしまいがちですが、様変わりして若い支部会員の活躍の世界の話を聞いたり、励ましたりする為にも、この「魚喰い同窓会」を毎年欠かさず開催していきたいものと思っております。



ナマハゲに歓迎される新入会員

【関東同窓会（畜大同窓生の皆様へ）】

会長 亀谷 勉（獣医S25）

6月には台風が2回も上陸するなど、今年は冷夏が心配されていましたが、7月と8月は、猛暑が続いています。十勝の夏はいかがでしょうか。それでは、支部の会員数の上では最も多いと思われる私どもの関東同窓会の現状について、述べたいと思います。

（会員数）1,178名（平成9年4月1日現在、関東地区在住者）

（役員構成）**顧問：**務方彦彦（獣医S18）、宮崎日出夫（獣医S18）、秋山正文（獣医S18）、鈴木一郎（総農S25）。**副会長：**永江 巖（化学S23）、梶 隆（獣医S25）、守田貞公（獣医S28）、海野玲子（獣医S29）。**監事：**猪田昭三（獣医S2）、林 博（酪農S35）。**幹事長：**各務俊彦（酪農S35）。**常任幹事：**松沢文雄（化学S23）、時田茂光（酪農S30）、田中正三（獣医S31）、藤野茂光（酪農S32）、渡部憲嗣（獣医S32）、辻 弘一（獣医S34）、野川浩正（獣医S36）、西 武久（酪農S37）、近藤卓夫（獣医S39）、太田修一（獣医S40）、新城健一（獣医S40）、吉田 隆（獣医S43）、沢田拓士（獣医S45）、水越幹夫（化学S48）、渡辺修一（経営S51）、大江宏明（化学S52）、松林敏行（酪農S59）、田沢浩史（環境S62）、五十島一恵（獣医S63修）、遠藤

一彦（酪農H1）、山川宏子（獣医H5）

会計幹事：山中 明（酪農S43）。**幹事：**平沢友志（獣医S19）ほか50名。

（通常総会と懇親会）例年3月下旬から4月上旬に、九段エドモンドホテルで開催しています。60余名の会員のほか、春の学会等でおいでの方の母校の先生方に、来賓としてご参加をお願いしています。平成7年度は、坂村前学長ほか3名、平成8年度は、久保学長ほか3名、本年度は、鈴木省三元学長ほか佐藤邦忠、三好俊三、松田清明、辻 修の諸先生方がおいで下さり、最近の母校の動向などを伺うことができました。なお、今年は都合で3月29日（土）、品川の高輪プリンスホテル「瑞祥の間」に変更して開催されました。プレゼンテーションとして麻布大学環境保健学部・丸山 務教授（獣医S36）に、最近とくに関心の話題である「O157」についてお話いただきました。

（その他の活動）阪神大震災：平成7年1月17日の忌まわしい阪神大震災には、同窓生でかなりの被害を受けられた方々がいました。私たちの同窓会では、兵庫県同窓会に早速お見舞金をお送りし、一日も早い復興を祈りました。秋山正文顧問の叙勲：全国酪農協会会長で本会顧問の秋山正文氏が、平成6年秋の叙勲で勲四等瑞宝章を受賞されたのをお祝いし、平成7年4月の総会の折りに記念品を贈呈しました。三宅 勝先生の受賞祝賀会：恩師の三宅先生が、平成7年春の叙勲で勲三等旭日中綬賞を受賞されたので、先生の横浜・世界獣医師大会御出席を機に、平成7年9月7日、横浜・華正楼本店で祝賀会を持ちました。家畜臨床繁殖学教室出身者のみならず、関東同窓会の有志60余名が集まりました。

藤田夫妻を囲むブラジルの夕べ：ブラジルで二千頭余の牛の牧場を営む藤田宗昭・めぐみ夫妻が、お子さん3人を連れて一時来日したのを機に、今年の6月20日、神田神保町ブラジルレストラン、“ムイト・ボン”で、集まりを企画しました。草地62卒前後の同窓生を中心に、ブラジル料理を味わいながら、藤田一家を激励する楽しいひとときを持つことができました。

（今後の課題）各務俊彦幹事長を中心に、同窓会の会務は円滑、順調に進められています。しかし、他の支部も同じかもしれませんが、若手会員特に女性会員の総会への出席勧誘が今後の大きな課題です。

【兵庫県支部】 支部長 杉山 将

一昨年1月17日早朝の大地震は、瞬時にして5千人以上の命を奪った大惨事でしたが強運揃いの同窓会諸君には、1名の犠牲者も出なかったのが不幸中の幸いでした。

しかし、兵庫県南部に住む者にとってそれからが大変な日々となりました。水もガスも出ない不自由な生活が1ヶ月以上、高速道路も橋も壊れ、電車もバスも動かず、マイカーはあっても道路は大渋滞、頼るは自分の足と自転車、また、街の空気は家庭解体の埃だらけ、風呂は無し、夜は灯りが消えて真っ暗闇という状況が続きました。

たとえ、半壊、一部損壊でも、住んでいる家がどうにか残った者は、神仏に感謝して明日への希望を持てますが、家屋全壊の人は、生活の根拠地を無くしてしまった訳ですからその時の心情は察するに余りあります。

支部事務局長の長谷川隆一君（獣医S53）がいち早く

同窓生の情報を苦勞して集めた結果9名の方が全壊の悲運に遭っていたことが判明しました。

まさにその時、「畜大同窓会」及び「畜大同窓会関東支部」から多額のお見舞金が贈られてきました。早速、4月22日、明石市内で支部役員会を開き、家屋全壊の9名に差し上げることを決定、分配させていただきました。ご厚情まことに有難うございました。あらためて御礼申し上げます。全国に大学は無数に在りますが、阪神・淡路大震災にあたって、同窓会からお見舞金が贈られてきた大学は、畜大以外にはありません。

支部会員数94名(会費納入者)。毎年の総会には、近藤 健次郎先生亡き後も、大杉 栄一先生、藤野 安彦先生(県内在住の旧教官)がご出席下され、昔話に花を咲かせています。

【鳥取県支部】 支部長 朽木廣 (獣医S23)

今年の夏は山陰が翔ぶ

ジャパンエキスポ97「山陰、夢みなと博覧会」が漁獲量5年連続日本一の鳥取県境港市で7月12日から9月28日まで開催されています。「翔け、交流新時代へ」をテーマに中心施設「環日本海交流村」ではロシア沿海地方、韓国江原道、中国吉林省、大連市、モンゴル中央県の四か国五地域の日本海を取り囲む諸国によって素晴らしい世界が紹介されています。「地域交流館」では鳥取県と結びつきが深い日本海沿いの9府県が参加し、各府県のお国自慢が紹介されます。隣県の鳥根県、地元の米子市、境港市、鳥取県等から100万人の入場者を見込んでいます。

また鳥根県では「古代出雲文化展」が松江市の八雲立つ風土記の丘、県立博物館で7月5日から8月24日まで開催されます。神々の国、悠久の遺産が展示され、大阪会場は11月18日～12月21日まで市立美術館です。

平成9年1月11日米子市皆生温泉「東光園」で鳥根、鳥取両県の合同同窓会を開催し夜遅くまで歓談しました。夏の「夢博」については同窓生の来場を歓迎することを決議しました。

畜大卒業後、公衆衛生部門に進まれた方は興味があるのかと思いますが、博覧会場には「食品衛生監視センター」が開所され、昨年猛威をふるったO-157をはじめ食中毒対策に万全を期することになっています。会期中、食品衛生監視員延べ250人を動員、連日2～6人が常駐して場内の衛生管理に努めるとのことです。太田垣公利 県衛検微生物科長(獣医S41)の手腕に期待し声援を送っているところです。

連絡先: 朽木; 0859-33-6778 (自宅)、太田垣氏 0857-24-1014 (自宅)、0857-23-0051 (勤務先)

♡ 同窓生からの投稿 ♡

天皇皇后両陛下接見記

渋谷昭市 (獣医S25, 在ブラジル、農場主)

天皇皇后両陛下のブラジル公式訪問が6月上旬にありまして、その日程の中に私たちのミナス(日本の地図ではミナスゼラエスとなっています。有名なリオデジャネイロの北の州です。事務局注)州も短時間ではありましたが含まれ、人口270万の州都ベロホリゾンテ市に6月4日に到

達され、各種の公式行事の後、私達日系人の10団体による歓迎会にお出で戴きました。(中略)

その会の中で、私達の北ミナス日伯協会と隣町のピラポラ日伯文協との共同のテーブルで、特産のパナナとブドウの展示品の前に来られ、佐藤ベロホリゾンテ市日伯文化協会会長から「400 kmも離れた遠くの町から来ている」と紹介されたとき、陛下から「遠いところご苦労様でした。体に気をつけて頑張ってください」とのお言葉を戴きました。その時の写真を下に示します。



天皇陛下の右が渋谷氏です。

私は、昭和30年1月元旦の参賀に出かけたとき、将棋倒しに遭った苦い経験があり、その時は遠く双眼鏡でしか見えないようなバルコニーで手を振られる天皇ご一家を拝顔したことを思い出し、写真に示しますような近くで拝顔の栄によくした幸運に感無量でした。(中略)

今回の両陛下のミナス州ご訪問がどのような経緯で決定したかは知る由も在りませんが、今年はず都のベロホリゾンテ市の100年祭には当たりますが、私は時の流れがそうさせたのではないかと推察しております。日本移民が始まって90年の間にサンパウロ州やパラナ州の農村開発は日系人の貢献が極めて大きく、もう開発の余地無しと言う所まで開拓が進んでおります。その点、ミナス州は、農業面では大規模のセラード開発が進んでおり、コーヒー生産も箱のないミナス州へと大きく移っていますし、輸出有望産業である熱帯果物生産地造成も進んでいます。さらにウジミナスに代表される製鉄関連産業、製紙関係事業、車産業も活発化しており、発展途上の州であります。それ故に、ブラジル国の急速な発展の中でも、特に世界の注目を集めている州が我々のミナス州でありますので、それに焦点を合わせたご訪問ではないかと思う次第です。

今回の両陛下のブラジル訪問が、日伯両国の友好関係の更なる発展に大きく貢献したことを信じて疑いません。私達ミナス州在住の日系人にとって誠に光栄なことで歓喜致し、かつ感謝しております。

(この文章は、渋谷先輩から本学の学生部の機関誌である「畜大便り」に掲載して欲しいと言って送られてきた4,000字以上の大作でしたが、機関誌に趣旨に合わないかと判断され、残念ながら掲載されませんでした。そこで海外で活躍されている先輩の近況を紹介するのも同窓会報の使命の一つであろうとの事務局の判断で、本報にその一部を掲載させていただきました。)

☆☆☆ 事務局便り ☆☆☆

【平成8年度事務局仕事経過】

平成8年10月21日 3年次編入学および大学院合格者に

協賛金納入願いを発送

12月14日 第1回役員会

12月17日 平成8年度同窓会名簿発送

12月19日 別科推薦入学および学部推薦入学(併合格者)に協賛金納入願いを発送

平成9年1月9日 第1回役員会議事録送付

1月28日 畜大便りを各支部へ発送

2月6日 同窓会より畜産大学へ奨学寄付金として10万円を納入

2月10日 学部推薦入学者および大学院合格者へ協賛金納入願いを発送

3月5日 学部前期および別科合格者へ協賛金納入願いを発送

3月14日 卒業および修了予定者に終身会費納入願いを配布

3月21日 学部後期合格者へ協賛金納入願いを発送

4月7日 関東同窓会へ4名の教育が出席

4月15日 畜大便りを各支部へ発送

5月23日 第2回役員会

6月26日 第2回役員会議事録送付

6月30日 平成9年度第1回代議員会案内を発送

7月26日 平成9年度第1回代議員会

【平成7年度決算報告】

(平成7年10月1日～平成8年9月30日)

収入の部

項目	金額	備考
前年度繰越金	11,725,610	平成6年度より
同窓会協賛金	2,470,000	10,000円×247人
名簿販売	3,299,000	名簿販売948冊、広告掲載料
貯金利子	8,370	郵便貯金利子
合計	17,502,980	

支出の部

項目	金額	備考
印刷代	2,934,461	名簿、会報、振替用紙、葉書、タックシール印刷等
通信費	1,159,821	名簿、会報等発送、料金受取人払等
人件費	397,400	アルバイト料
振替手数料	71,160	
事務費	128,933	学長饗別、香典、用紙、コピー代等
会議費	154,307	役員会、代議員会
交通費	20,000	旅費
記念品代	556,200	キーホルダー(500個)
次年度繰越金	12,080,698	
合計	17,502,980	

収支決算報告は会計年度の關係で1年遅れになります。ご了承ください。本報告は会計監査を受け、代議員会で承認されました。現在、下記の予算で業務を執行中です。

【帯広畜産大学同窓会予算案】

(平成8年10月1日～平成9年9月30日)

通常会計：収入の部

項目	予算額	備考
前年度繰越金	12,080,698	平成7年度より
同窓会協賛金	2,500,000	10,000 x 250人
名簿販売	2,088,000	3,000円 x 600冊 広告料288,000円
雑収入	9,000	郵便貯金利子
合計	16,677,698	

通常会計：支出の部

項目	予算額	備考
印刷代	3,200,000	案内状、封筒等
通信費	1,200,000	会報・名簿発送等
人件費	650,000	アルバイト料
振替手数料	70,000	
事務費	200,000	用紙、コピー代等
会議費	200,000	総会、役員会等
役員手当	100,000	10名分
交通費	200,000	役員旅費
大学後援経費	100,000	
特別会計へ	10,000,402	
予備費	757,296	
合計	16,677,698	

現在、この予算に従って事業を行っております。今年度の決算は10月18日に予定されております総会に報告され、新年度の予算が提案されます。

特別会計：収入の部

項目	予算額	備考
前年度繰越金	10,000,402	平成8年度より設定

特別会計：支出の部

基金として貯めておくために支出予定無し。

(平成8年度から定期貯金、養老保険として保有している資金を特別会計として扱うことになりました。また、畜産大学を後援するための奨学寄付金として100,000円を大学に寄付することが役員会と代議員会で承認されました。)

【協賛金納入状況と終身会費納入のお願い】

掲載致します。

☪ **ご注意下さい!** ☪

昨年、本同窓会と全く関係のないところから本学の名簿販売の案内がダイレクトメールで届きましたが、同窓会の名簿とは全く無関係なものですので、くれぐれもお間違えのないようにご案内申し上げます。

☎ **ご連絡下さい!** ☎

同窓会会員の方に計報があった場合は、ご連絡いただければ事務局から同窓会長名の用電を送りますので、喪主の方の氏名、葬儀の日時場所等をお知らせ下さい。

連絡先:事務局 電話 0155-49-5350 (山田)

FAX 0155-49-5354

庶務 電話 49-5571 (石橋)

母校からのお願い

学生の就職にご協力を!

最近の不景気で学生の就職が困難になっております。本学卒業または修了予定者に対しまして同窓の先輩諸兄妹の格別のご高配をお願いいたします。採用を考えていただけるところが在りましたら、是非とも大学の学生課へご連絡下さい。

連絡先:080 帯広市稲田町 帯広畜産大学 学生課

電話 0155-49-5306, FAX 0155-49-5319



編集後記

先号に本号はクラス会(級友会)の活動状況を特集したいのでは是非投稿をお願いしたいとご案内しましたが、残念ながら投稿はゼロでした。

次号は是非、クラス会(級友会)の活動状況を特集したいと存じますので、我々のクラスはこんなことをやっていますよとか、卒業〇〇周年の同窓会をしましたよ、とか色々ご紹介下さい。また、“〇年〇月〇日、〇〇にて卒業〇〇周年のクラス会をしましょう”等の案内も掲載させていただきますのでご遠慮無くお知らせ下さい。同窓会報の発行時期は毎年9月の予定です。

今年度は10月18日に2年に一度の総会を開きますので、総会にご出席いただければ幸いです。

終身会費納入のご案内を昨年に続いて致しましたが、本年度はほとんど納入していただけませんでした。是非とも皆様のご協力とご支援をお願いいたします。皆様のご協力とご支援で同窓会の活動がより充実・活性化されるでしょう。

本同窓会報を年々、少しづつでも充実させるべく努力致しており、本号には写真の掲載を試みました。仕上がりが心配です。内容を充実させるアイデアなどを是非お寄せ下さい。お願いします!

最後までお読みいただき感謝!



7月25日現在の協賛金納入者数は、平成9年度の新生が学部288名(3年次編入生13名を含む)、別科13名、大学院修士課程48名、合計349名で、協賛金納入者が239人で約70%の納入率となっています。また、卒業生からの終身会費の納入が39人となっています。この協賛金は平成5年4月入学時に1万円いただき始めたもので、卒業または修了時に終身会費に振り替わるものになっております。**会期では卒業または修了時に終身会費1万円を速やかに納入する事になっておりますので、未納の会員の方は名簿購入のための振替用紙を用いて(通信欄に終身会費納入とご記入下さい)自己申告で終身会費の納入をお願い申し上げます。**また、これは今回の総会でご検討いただくのですが、同窓会の活動をより充実させるために経済基盤を磐石のものにたく考えております。そのために協賛金(終身会費)を2万円に増額する案を役員会と代議員会で決定致しました。もし、この値上げ案が総会で承認されますと、既卒業(修了)生の方々で終身会費未納の方々の終身会費も2万円の協賛金が終身会費に振り替わる年度(学年など2年後から6年後と変動しますが)から2万円いただくこととなります。どうか、値上がりする前に終身会費1万円の未納の方は納入を是非ともお願いいたします。

【支部会結成状況】

昨年の会報発行時までに19支部が結成されましたが、今年度に結成された新しい支部は残念ながら在りませんでした。全ての地域に支部の結成を重ねてお願い申し上げます。(敬称略)は支部長、会長または事務局などの代表者を示します。

ブラジル(浅井澄)、芽室支部(村瀬洋一)、富良野支部(中根正彦)、札幌支部(市岡英二)、釧路支部(石沢友男)、青森県支部(諏訪内博之)、秋田県支部(月澤雄一)、山形県支部(相田二郎)、宮城県支部(阿部俊)、関東同窓会(亀谷勉)、福井県支部(寺本賢)、滋賀県支部(山中幾治)、三重県支部(東原信幸)、兵庫県支部(杉山将)、鳥取県支部(朽木廣)、高根県支部(安部康之)広高県支部(花岡康春)、愛媛県支部(横山政市)、九州支部(深田泰三)。

【平成9年版同窓会名簿の頒布について】

同窓会名簿の平成9年版を年内発行を目指して作業中です。同窓会名簿ご購入希望の方は同封の振替用紙にてお申込みいただきたいと存じます(頒価3,000円)。名簿の購入は、**何時でも受け付けておりますので、随時お申し込み下さい。**

昨年からは、旧姓も五十音別索引に入れたり、FAX番号も記載して、利用しやすい名簿に改善しました。また、職業別索引も作成しており、勤務先名を正確に統一して、その整備にも心掛けております。

同窓会員名簿の整備につきましては、ご本人からの連絡が一番信頼できるものです。今年から、宛先を打出したもう一方側に、名簿に記載されている内容を印刷しました。内容に誤りがありましたら、赤ペンで訂正して、是非ご投函して下さいますようお願い申し上げます(10月10日迄に届いたハガキについては、今回発行の名簿に